



●「きりこ」とは

宮城県塩竈市以北から三陸地方南部では、神社の神職が正月の神棚飾りのために縁起物を切り抜いた半紙「きりこ」や飾り幣束などを、暮れに氏子に配布する風習がある。神社ごとに伝わる「きりこ」のデザインはそれぞれ異なり、いずれも美しい。漁業がさかんな南三陸町では、「きりこ」を神棚に一年を通して飾る家も多い。

みんなの記憶を “福幸きりこ” にしよう。

たった1枚の白い紙で、神棚をはなやかに飾る、祝祭的な「きりこ」。各神社が伝えてきた「きりこ」の様式を真似て、南三陸の人々の思い出や宝物、心に決めた思いなどを、縁起のいい絵柄にし、「福幸きりこ」を作ります。それは、今を力強く生きているひとりひとりの証です。

南三陸町では町が丸ごと流失しました。



写真の志津川地区には1800軒の家がありました。店も工場も会社も公共施設もあらゆるものが一瞬のうちになくなり、わずかに残った建物の残骸の解体も始まりました。

みんなの思い出のよりどころがどんどん消えていく町で、人々は依然として展望が開けない『仮』の生活をおくっています。

そんな苦しい状況の中、ひとりひとりが南三陸町にとどまり、懸命に生きていること、そして、その存在の背景にこれまで営々と先祖の代から営んできた生業があり、人々の汗があったこと。それを白い切り紙で伝えたい、この町ではぐまれてきた記憶をひととき可視化したいと考えています。

「福幸きりこ」を人々のストーリーとともに、南三陸町にある2カ所の仮設商店街などに展示します。切り紙制作のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

- 主催 ENVISI
- 共催 一般社団法人 南三陸町観光協会
- 後援 南三陸さんさん商店街 歌津伊里前福幸商店街
- 助成 **Asahi** アサヒビール芸術文化財団
公益財団法人文化・芸術による福武地域振興財団
- 特別協賛 **Asahi** アサヒビール株式会社

“きりこ” に込めた思いをひとこと添えてください。

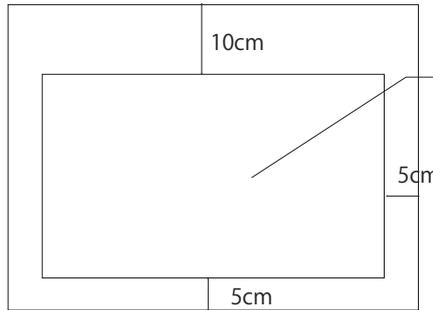
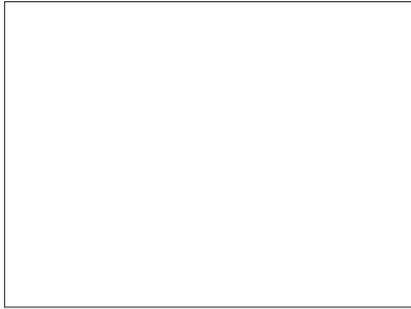
どんなことをもとに作った“きりこ”でしょうか？

南三陸の方にひとことメッセージをいただければ幸いです。

別紙フォーマットにご記入いただき、“きりこ” に添えてください。

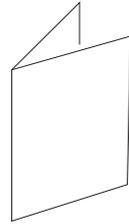
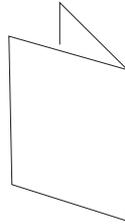
“きりこ” の作り方

- 1 材料の白い和紙の外側は白い額縁だと考えてください。
丈夫は吊すときに紐にのり貼りますので、上は 10cm の幅をとり、側部と下部は 5cm の枠をとります。



この枠の中に絵柄を考えます。

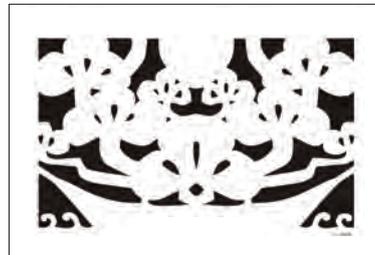
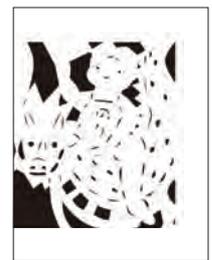
- 2 材料の白い和紙を二つ折にします。
開くとシンメトリーで成立する絵柄を考えます。
縁起のいいアイテムで構成してください。



- 3 左は「松月館」という旅館のための模様です。
縁起のいい松、中央上部に満月、昔船着き場が目の前にあったという話から船と波をデザインしました。

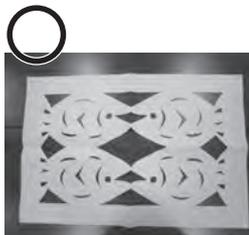
右は海苔屋さんの焼き海苔の袋に描いてある「のり太郎」をデザインしました。龍の背中にのり太郎がまたがっています。

いずれも外側の額縁の部分から切り離されず、絵柄同士がしっかりとつながって、風などに耐えるように、切り抜く部分を考えてください。

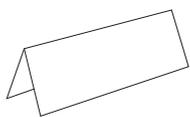


- 4 できれば紙を 2 枚重ねにして、一度に 2 枚切り抜いてください。黒く塗りつぶしている部分を切り透かし、それぞれを開くと右のような模様になります。

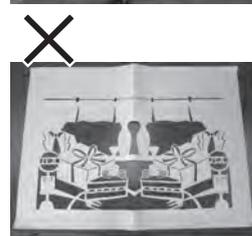
注意



「木」の上の三角の部分がべろりとたれ下がってしまう。つなぎを入れないと形を保てない。



別方向から二つ折にしても OK です。



織細すぎて、屋外での展示に弱い。枠の部分としっかりとつながっており、大きく切り抜かれている部分が少ないほうが丈夫でよい。

形を線で描くのではなく、紙の面で残すように切り透かすのが“きりこ”流。そのほうが丈夫で美しい。



南三陸 福幸きりこ祭
白い紙で彩るみんなの記憶

南三陸町の

さんへ

“福幸きりこ”の作者より

お名前

所在地 ()

メッセージ